

<香川県内の経済動向> (平成 29 年 1 月 16 日作成)

現在の景気：緩やかな回復を続けている。

3 か月程度の見通し：緩やかな回復へ向けた動きが続くと考えられる。

個人消費：持ち直し基調。

11 月の百貨店・スーパー販売（速報値）は、前年比 1.3%増と 2 カ月連続で増加。店調後は前年比 1.3%増と 2 カ月連続で増加。11 月のコンビニエンスストア販売（速報値）は、前年比（店調前）2.6%増加。11 月の専門量販店販売（速報値）は、家電大型専門店が前年比（店調前）3.0%減と 2 カ月連続で減少、ドラッグストアが同 0.2%増と 2 カ月連続で増加、ホームセンターが同 1.7%減と 4 カ月連続で減少。11 月の乗用車新車販売は、軽乗用車で前年比 1.4%と減少したものの、普通乗用車で同 18.6%増、小型乗用車で同 11.6%と増加し、全体では前年比 7.4%増と 3 カ月ぶりに増加。

住宅建築：振れを伴いつつも緩やかな持ち直し傾向。

11 月の住宅着工戸数は、持家で前年比 11.9%と減少したものの、貸家で同 11.0%増、分譲住宅で同 154.5%と増加し、全体では前年比 7.4%増と 2 カ月ぶりに増加。

設備投資：底堅く推移。

「全国企業短期経済観測調査結果（2016 年 12 月）-香川県-」における 2016 年度の設備投資は、全産業で前年度比 18.6%増加見込み。

公共工事：足許減少も高水準で推移。

11 月の公共工事請負額は、国・独立行政法人等で前年比 6.5%と増加したものの、県で同 48.8%減、市町で同 19.1%と減少し、全体では前年比 30.3%減と 2 カ月連続で減少。4～11 月の年度累計では前年比 8.0%増加。

輸出：底堅く推移。

11 月の県内通関輸出額は、石油製品輸出額が前年同月の 1 百万円から 24 億円へ増加し、全体では前年比 89.2%増と 3 カ月連続で増加。1～11 月の累計では前年比 15.7%増加。

生産活動：持ち直しの動きに足踏みがみられる。

10 月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比 4.2%上昇し、100.7 と 2 カ月ぶりに上昇。原指数は、前年比 6.9%低下し 111.1 と 2 カ月連続で低下。非鉄金属工業（電気銅）、はん用・生産用機械工業（高所作業車）などで上昇。金属製品工業（アルミニウム建具）、電気機械工業（開閉制御装置）などで低下。

観光：堅調に推移。

11 月の県内テーマパークを含めた主要観光地の入込客数は、前年比 4.7%増と 2 カ月連続で増加。1～11 月の累計では前年比 2.8%増加。

雇用情勢：好調に推移。

11月の有効求人倍率（季調済）は、前月より0.01ポイント低下の1.71倍と3カ月ぶりに低下。新規求人数（原数値）は、卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉等で増加し、全体では前年比8.3%増と16カ月連続で増加。

（トピックス）

○12月27日発表の観光庁の宿泊旅行統計調査によると、10月の香川県の外国人延べ宿泊者数（速報値）は、前年同月の2.3倍強の5万人泊と、全国で最も伸びが高かった。10月8日に瀬戸内海の島々などを会場とする瀬戸内国際芸術祭の秋会期が開幕し、近隣のアジアの国・地域から多くの観光客が香川県を訪れた。単月で5万人泊に達したのは初めてで、これまでは多い月でも3万人泊台だった。国籍別の構成比をみると、芸術祭に合わせて高松への直行便が増便された台湾からが25%と最も多く、次いで中国が19%、香港が12%、韓国が10%、米国が3%の順だった。1～10月の累計は29万人泊となり、過去最多を更新した。

項目	変化方向			評 価				
	好転	不変	悪化	晴	晴一部曇	曇	曇一部雨	雨
現在の景気	○	●	○	○	○	●	○	○
3か月程度の見通し	○	●	○					
個人消費	○	●	○	○	○	●	○	○
住宅建築	○	●	○	○	●	○	○	○
設備投資	○	●	○	○	○	●	○	○
公共工事	○	●	○	○	●	○	○	○
輸出	○	●	○	○	○	○	●	○
生産活動	○	●	○	○	○	○	●	○
観光	○	●	○	○	○	●	○	○
雇用情勢	○	●	○	○	●	○	○	○
企業収益	○	●	○					
企業倒産	○	●	○					
資金需要	○	●	○					